

「ほたて漆喰壁」施工要領書（木造用）

（2回塗りの製品です）

【 注意事項 】

- ① 施工前に必ず本要領書をしっかりと読み、ご不明な点がある場合には事前に弊社までお問い合わせください。
- ② 強くこすったり、何度も押さえたりすると色むら等の原因になります。
- ③ 弊社製品「ほたて漆喰ライト」とは違う製品のため、本施工要領書をしっかりと読んでから施工を開始してください。

お問い合わせ先



〒052-0026 北海道伊達市錦町 105 番地

TEL 0142-23-8811 FAX 0142-23-8833

URL <http://www.aimori.net/> E-mail info@aimori.net

目 次

施工するに当たって	3
1. 施工前の注意事項・準備物	4～5
安全上の注意	
保管及び廃棄上の注意	
現場環境の注意	
その他の注意	
施工前の準備物	
2. 下地処理【基本下地：石膏ボード（Vカット）】	6～8
下地について	
石膏ボードのジョイント処理	
石膏ボードのジョイント処理の流れ	
3. 石膏ボード以外の下地処理方法	9
構造用合板の場合	
コンクリートの場合	
4. リフォームでの下地処理方法	10
クロス下地の場合	
砂壁・繊維壁・聚楽壁の場合	
5. 下塗り施工	11～12
養生	
下塗り材の練り混ぜ・施工	
6. 仕上げ施工	13～14
ほたて漆喰壁の練り混ぜ	
ほたて漆喰壁の上塗り	
ほたて漆喰壁の仕上げ	

施工するに当たって

必ずお読みください！！

- 1、施工前に必ず本施工要領書を読み、施工手順・諸注意事項等の確認をお願い致します。施工要領書以外の施工方法、手順で施工した場合、製品の性能が保たれず不具合を生じることがあります。
- 2、記載内容以外の件に関しては、必ず弊社までお問い合わせください。
- 3、本製品は自然素材からできた材料のため、完全にコテむらを消すことはできません。
- 4、本製品は、金ゴテなどで強く押えたり、こすってツルっと仕上げる方法はできません。あくまでも、塗り付けながら仕上げていくようにしてください。こすり過ぎは厳禁です。
- 5、主原料のホタテ貝殻は、貝殻により色合いが異なるため、生産ロットによっては調色に多少色違いが発生しますが、自然素材である特有の現象ですので、あらかじめご承知おきください。
- 6、本製品は「ほたて漆喰ライト」とは違い、下塗り材が必要となります。下塗り材については、弊社で販売しているものではなく、本要領書11ページにある配合表をもとに左官業者様にご用意いただいております。

1. 施工前の注意事項・準備物

安全上の注意

本製品はホタテ貝殻を使用した自然素材から製造しておりますが、取り扱いには以下のことにご注意ください。

- 1、作業にあたっては作業着を着用し、素肌の露出を少なくしてください。
- 2、目や口に入らないようにしてください。誤って入った場合はすみやかに清浄な水で洗浄してください。
- 3、本製品は弱アルカリ性ですので、素手でさわった場合はすみやかに洗浄してください。天井などの施工の際にも素肌にかからないように注意してください。
- 4、本品は食べ物ではありません。

保管及び廃棄上の注意

- 1、製品の保管はセメントと同様に湿気のないところに保管し、開封後はなるべく使い切ってください。
- 2、子供の手の届かないところに保管してください。
- 3、練り混ぜ後の材料や水の廃棄は環境公害にならないよう適切に処理してください。
- 4、攪拌後の材料が余った場合は、ビニールなどで完全に密閉することにより翌日も使うことが可能です。ただし、若干の差し水をして再度十分な攪拌をしてから使用してください。

現場環境の注意

- 1、冬期間の施工は温度・湿度管理を十分にし、気温5℃以下の場合は施工を避けてください。また、乾燥するまでの間も気温が5℃以下にならないよう注意してください。
- 2、冬期間や湿気の多い場所では硬化乾燥が遅く、色むら、凍結などの恐れがありますので、施工後は通風を良くし、必要に応じて採暖などの養生をしてください。
- 3、原料に漆喰の成分である石灰（いしばい）が配合されているため、夏場でも乾燥するまでに最低でも2～3日かかります。

その他の注意

- 1、本製品は内装用です。外部への使用は避けてください。また、浴室・台所など常時水に触れる恐れのある場所への使用はしないでください。
- 2、本製品はホタテ貝殻などによる自然素材のため、施工中・施工後ともにわずかな臭いがありますが、乾燥することにより無臭になります。
- 3、本製品は、既調合の左官材料ですので、他の物を混入しないでください。

- 4、本製品は塗り継ぎができません。よって、一面ずつ仕上げるようにしてください。練り時間の異なる材料を同じ面で使った場合、色むらになることがありますので、ご注意ください。
- 5、練り混ぜ水には水道水または、これらに準ずるきれいな水をご使用ください。練り水の量によりひび割れや色むらが生じる恐れがあります。基準水量は、地域や季節により異なる場合もありますので、現場にて微調整してください。

施工前の準備物

- 1、防塵マスク・ゴム手袋（本製品に毒性はありませんが、用心のため開封・攪拌時の着用をお勧めいたします。）
- 2、プラスチック製の舟（仮練り用・20kg×2袋入る大きさが理想です。）
- 3、左官用ポリバケツ（φ300mm）
- 4、攪拌機（高速用）
- 5、APパテ、Gメッシュ・グラスファイバー（石膏ボードのジョイント処理用）
- 6、マスキングテープ（木枠・巾木廻りの養生に使用します）
- 7、コーナー補強材（フクビ：ニューツーウェー定木. 3K）
- 8、金コテ、刷毛など

2. 下地処理【基本下地：石膏ボード（Vカット）】

下地について

- 1、下地石膏ボードは12.5mm厚のVカットされたベベルボードを使用してください。
 - 2、塗り厚が5.0mmのため、廻り縁・木枠・巾木のチリ寸法は10mm以上としてください。また、廻り縁・木枠・巾木を標準としてください。
 - 3、下地石膏ボードはジョイント部分・廻り縁・木枠・幅木などはできるだけ隙間のないように貼り込んでください。隙間が3mm以上ある場合には、あらかじめパテ材でその部分を埋めてください。（専用のAPパテを使用してください。）
 - 4、Vカットされていない側面などは事前にVカットすることをお勧めします。ジョイント部分全てをVカットしてください。
 - 5、石膏ボードは下地の動きを抑えるため、約150mm間隔で亜鉛メッキ又はステンレスビス止めをしてください。もし、釘止めをしますとクラックやサビ浮き出しの原因になることがあります。
- ※同じ仕上げ面で下地が違う場合（モルタルと合板など）は、ジョイント部分でのひび割れ・色むらなどの恐れがありますので避けてください。見切り縁、目地などの処理をしてください。

石膏ボードのジョイント処理

① パテを練る

10リットル以上のバケツを用意し、2.5～3.0リットルの水（水道水または、これに準ずる水）を入れ、APパテ1袋を加えて攪拌機で5分以上よく混練し、均一なペースト状にしてください。一度、攪拌したパテ材は90分以内に使用してください。

② パテの下塗り

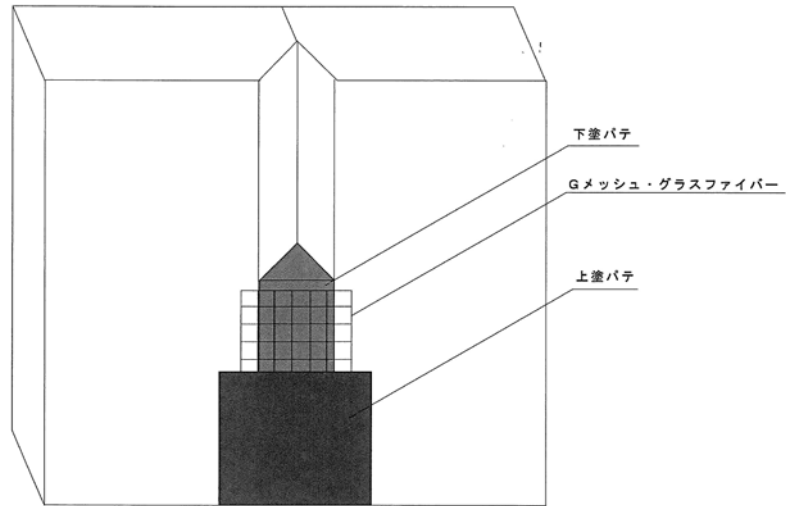
石膏ボードのジョイント部分とジョイントから幅50mm程度のビス頭にヘラ又はコテで押し込むように施工してください。

③ ②のパテが完全に乾燥した後、ジョイント部分にGメッシュ・グラスファイバーを貼り付けてください。

④ パテの上塗り

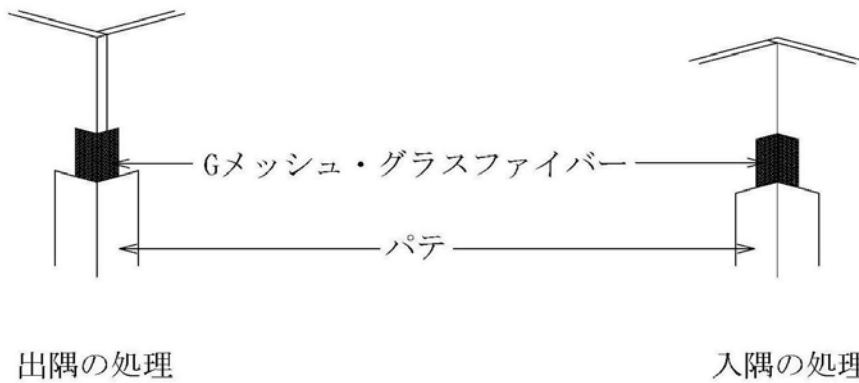
Gメッシュ・グラスファイバーを覆い隠すように、パテを60mm程度の幅に塗り、平滑に仕上げ乾燥させます。

⑤ ④のパテが完全に乾燥した後、サンドペーパーなどを使いジョイント部分をできるだけ平らに均します。その際、粉や汚れもきれいに落としてください。



⑥ 入隅・出隅の処理方法

入隅・出隅部分にGメッシュ・グラスファイバーを貼り付けて、Gメッシュ・グラスファイバーを覆い隠すようにAPパテを塗り、乾燥させます。完全に乾燥した後、サンドペーパーなどを使いできるだけ平らに均します。その際、粉や汚れもきれいに落としてください。



※パテ材は必ず弊社指定のAPパテを使用してください。他のパテなどの代替品を使用した場合には、クラック・色むらが発生することがあります。

※パテは必ず完全乾燥させてください。不完全な乾燥は仕上げ材の色むら等につながります。

※出隅などで石膏ボードの切り口が表面に出ている箇所は水引が激しいため、色むら・ひび割れの恐れがあります。必ずシーラー材（※1）の2倍液で処理してからAPパテを塗ってください。

なお、アレルギー並びに化学物質過敏症の方は、シーラー材が原因で気分が悪くなる場合がありますので、お施主様にシーラーを使用することをご確認いただいてから、使用してください。

※1 ハイモルエマルジョン（昭和電工社製 F☆☆☆☆製品）

石膏ボードのジョイント処理の流れ

①

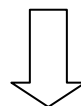
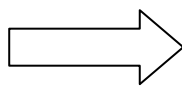


下塗パテ

②



Gメッシュ・グラスファイバーの貼り付け



④

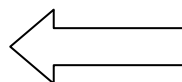


サンドペーパー等で平らに均します

③



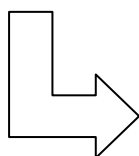
上塗パテ



⑤



ジョイント処理完了



3. 石膏ボード以外の下地処理方法

石膏ボード以外の下地の場合、必ずシーラー処理が必要です

下地の急激な水の吸い込みによるドライアウトなどを防ぐために行います

[シーラー処理方法]

- 1、シーラー材は、ハネダ化学工業（株）の“ハイポリックシーラー”を原液で使用してください。（この製品はホルムアルデヒドを発生する可能性がないF☆☆☆☆製品ですので、お勧めいたします）
- 2、シーラーは、2回塗りしてください（原液）。施工する面全面に1回目のシーラーを塗ります。1回目のシーラーが完全に乾いてから2回目のシーラーを塗ってください。（塗りむらがあると水の吸い込みが違い、色むらの原因になります）
- 3、本製品の施工は、2回目のシーラーが完全に乾燥してから行ってください。シーラー処理の翌日以降の施工をお勧めいたします。

構造用合板の場合

- ① 構造用合板は隙間の無いように貼り込み、錆の出る恐れのある釘などを使用した場合は、錆止め処理を行ってください。
- ② ジョイント部分・入隅・出隅には、石膏ボード下地と同様、APパテとGメッシュ・グラスファイバーを使用して処理をしてください。（6～7ページを参照）
- ③ 施工する面全面にシーラー処理を2回行います。（上記参照）

コンクリートの場合

- ① 下地調整塗材（シゴキ材）をその製品の施工手順のとおり施工する面全面に塗布し、段差・ピンホールなどが無いよう平滑にしてください。
- ② 1が完全に乾燥した後、施工する面全面にシーラー処理を2回行います。（上記参照）

※同じ仕上げ面で下地が違う場合（モルタルと合板など）は、ジョイント部分でのひび割れ・色むらなどの恐れがありますので避けてください。見切り縁、目地などの処理をしてください。

本製品の施工できない下地

テーパーボード、ケイカル板、モイス、ダイライト、タイル貼り、無垢の羽目板 など

※上記以外の下地で施工する際には、必ず弊社までお問い合わせください※

4. リフォームでの下地処理方法

クロス下地の場合

- ① クロス下地の状態を確認します。クロスが下地と十分に密着しており、かつ巾木や廻り縁が5mm程度（塗り厚分）あることを確認してください。

～こんな時はどうするの？～

- ・クロスが部分的に剥がれている

A. 糊で接着して、乾燥させます。乾燥後に密着が十分であるかの確認します。

- ・クロスが浮き上がっている

A. カッターで浮き上がった箇所を裂き、糊で接着して乾燥させます。乾燥後に密着が十分であるかの確認をします。

- ・クラックがある場合

A. APパテでクラック部分を埋めて乾燥させます。乾燥後、Gメッシュ・グラスファイバーを貼りAPパテで平滑にします。

- ② シーラー材（ジュラックスシーラーNB 四国化成工業㈱製）を施工する面全面に2回塗布します。2回目のシーラー処理は、1回目のシーラーが完全に乾燥してから行ってください。
- ③ 2回目のシーラーが完全に乾燥した後、クロスのジョイント部分にGメッシュ・グラスファイバーを貼り付けます。
- ④ 下塗材（カーボン・プラスター 四国化成工業㈱製）を約1.2～1.5mm厚で施工面が平滑になるよう塗布し、完全乾燥させます。

下記に該当する場合は、クロスを剥がして必要な補修をしてからの施工となりますのでご注意ください！

布クロス、紙クロスの場合

カビや雨漏れの跡などがある場合

油が付着している、あるいは油性のマジックなどが付着している場合

下地がしっかり取り付けられていない場合（例えば、下地を手で押すと動く場合など）

砂壁・繊維壁・聚楽壁の場合

- ① 現在塗られている、上塗り部分を剥がしてください。（左官用剥離材などを使用してください）
- ② 上塗り部分を剥がした後、表面に凹凸がある場合には、APパテで平滑にしてください。
- ③ シーラー処理を2回行います。（施工方法・使用シーラー材については8ページを参照）

上塗り部分を剥がした後の状態が下記に該当する場合は、補修が必要となりますのでご注意ください！

下地が薄い、あるいはしっかりと留め付けられていない場合など

鉄釘が使用されている場合など

5. 下塗り施工

養生

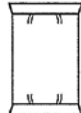
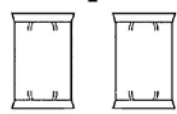
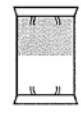
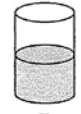
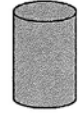
- ① 廻り縁、木枠、巾木などに塗りしろ分（6mm程度）を逃げてマスキングテープで養生をします。
- ② 床面（フローリングなど）に本製品が直接触れないようにビニールなどで養生してください。
- ③ 下地の石膏ボードなどの表面に付着しているほこりなどをきれいに除去してください。



下塗り材の練り混ぜ・施工

- ① 下塗り材は下図の要領にてセメント樹脂ノロを作り、ボード面にシゴキ塗りします。

セメントノロ（シゴキ）の配合表（1mm厚）

セメント	25kg袋×1袋	 25kg
+		
外ローズ （保水材）	45g袋×2袋	 45g
+		
ハイサンド5号 （シゴキモルタル用骨材）	20kg袋×0.5袋	 20kg
+		
タフレックス （セメントモルタル用接着増強剤）	3.3kg	 3.3kg
+		
水	6.6kg	 6.6kg
+		
施工面積	15~20㎡	

- ② 下塗り材を上記の割合で配合し、攪拌機で5分以上攪拌してから適量の水を加えて混ぜてください。
※施工する季節や現場状況により水量は若干異なります。
- ③ 下塗り材は1回に1.5㎡分程度を作り、ボード面に1mm厚でシゴキ塗りします。
- ④ 下塗り材が乾燥する前に、仕上げ材（ほたて漆喰壁）を迫っかけ上塗りするか、少なくとも10～15分以内に上塗り施工してください。
- ⑤ 下塗り材が乾燥した状態での上塗りは、下地との密着が不十分になり、亀裂・剥離の原因になりますので、ご注意ください。



セメントノロ下塗り状況

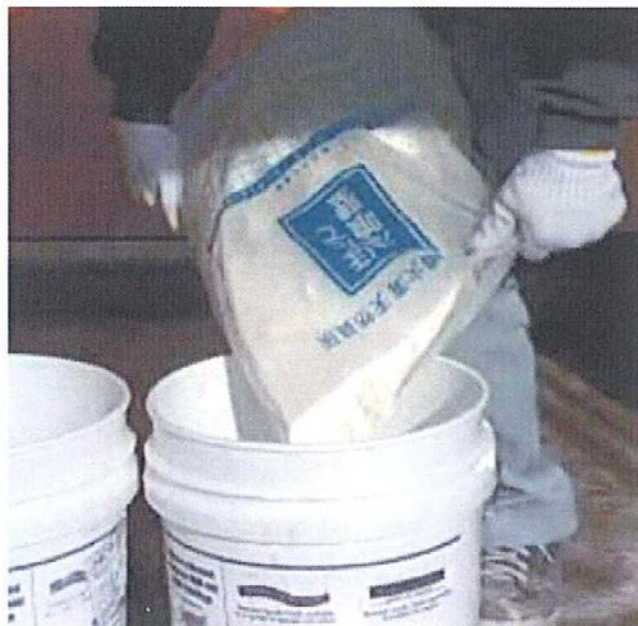
～注意事項～

必ず、下塗り材（セメントノロ）が乾燥する前に、仕上げ材（ほたて漆喰壁）を施工するようにしてください。剥離等の原因になります。

6. 仕上げ施工

ほたて漆喰壁の練り混ぜ

- ① 基準水量（約8.5リットル／1袋）のきれいな水を用意してください。
- ② 左官用ポリバケツに本製品を入れ、そこへ水を少しずつ加えて、攪拌機で十分に練ってください。
※1袋を一度に攪拌する際には、約1.0分間攪拌してください。
※施工する季節や現場状況により水量は若干異なります。



下記のようなことはぜったいに行わないでください！

- コテなどを洗った水を練り水に使用する（色むらの原因になります）
- 他の材料（セメントやモルタルなど）が付着しているバケツを使用する
- サビなどが付着したバケツを使用する

ほたて漆喰壁の上塗り

- ① セメントノロによる下塗り材が乾燥する前に、ほたて漆喰壁を1回塗りで仕上げます。
- ② 施工の始めは入隅、柱、木枠などの塗り継ぎの縁が切れる箇所から始めてください。
- ③ その後平面部を均一に（3.5mm～5.0mm）塗り仕上げてください。
- ④ 一人1工程の施工面積は下塗りの状況にもよりますが、15㎡（3袋分）を目安にして繰り返し施工してください。
- ⑤ 本製品はツルっと仕上げる方法はありません。多少のコテ波は残ります。こすり過ぎは厳禁です。



- ⑥ 本製品は自然素材のため、乾燥するまでに2～3日ほどかかります。施工直後は水分を含んでいるため多少濃い目の色ですが乾燥することにより指定色になります。
- ⑦ 施工中、施工後ともホタテ貝殻などの臭いがしますが、乾燥することにより無臭になります。

ほたて漆喰壁の仕上げ

- ① ほたて漆喰壁上塗り後、時間をあけずに多少の水引き具合を見て各種仕上げを行ってください。
- ② 仕上げまでの時間は30分以内が目安です。
- ③ 施工中又は施工後乾燥する前に、施工面に水を付けてコテで押えるあるいは水を付着させたコテで押えると色むら等の原因になります。
- ④ 刷毛引き、コテ波、木ずり仕上げの他、ワラスサを吹き掛けてコテ押さえなどオリジナルのテクスチャーで仕上げをしてください。
- ⑤ 施工乾燥後にひび割れなどの補修をする場合は、本材を細目のメッシュで微細にふるいをかけた材料に適量の水を混ぜ（ペースト状）、補修箇所を刷毛できれいな水で濡らしたあと、コテにより埋め込んでください。
ただし、本製品は自然素材のため、補修をした箇所と最初に塗った箇所とでは、色や表情の違いが出てしまいます。

